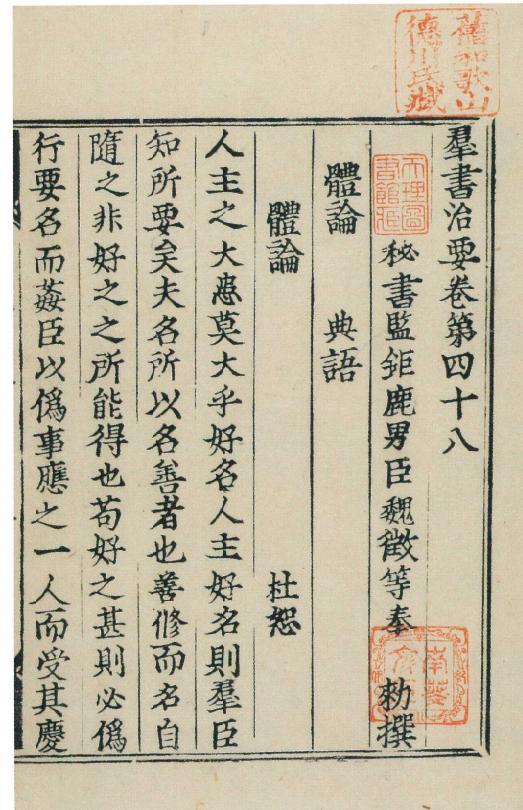


# 群書治要



## ◆家康が文治に利用した

### 皇帝の政治参考書

唐の太宗（五九八～六四九）が魏徵（あいせい）に命じて編纂させ、貞觀五年（六三二）に成了た政治の参考書である。『五經』や『論語』、『漢書』『三国志』など六十余種の古典の中から政治の扱べき理、戒の手本となる箇所を抜粋したもので五十巻から成了た。後世に「貞觀の治」と称される善政に大いに寄与することとなつたが、中国では早く宋時代（九六〇～一二七九）には亡び、日本にのみ伝存する。

わが国には奈良時代に遣唐使によつてもたらされ、為政者の教養書として永く尊ばれてきた。

もなく完成した。

鎌倉時代に北条実時（一二三四～七六）と孫の貞顕（さだあき）（一二七八～一三三三）が収集・書写させた金沢文庫本四十七巻には、魏の杜恕（としょく）の「体論」など失われて伝存しない書物や文が多く残り、本邦諸本の祖本となつた。

掲出本は徳川家康（一四五三～一六一六）が將軍職を譲つて駿府（現在の静岡）に隠居してから、この金沢文庫本を基に林羅山（一五八三～一六五七）と金地院崇伝（一五六九～一六三三）に命じ、銅活字約十万個を用いて出版したもので、出版地にちなんで「駿河版」と呼ばれる。元和二年（一六一六）、家康が没して間

もなく完成した。

家康は統治を盤石にするため、治世策の一つとしての文教にも心を配り、治世に有益な書物（主に中国の古典）の出版に力を注いだ。「群書治要」はそのため押しとも言えるが、二四〇年後、地震が頻発した「嘉永」改元の際、本書卷三十八にある「庶人安政」然後君子安位矣（庶民が生きやすい世ならば、治める君子も安らかである）から、「安政」を採り、その安政年間が黒船来航に始まる幕府終焉の始まりになろうとは、全くの想定外だっただろう。

本書を読めば、家康の熱情が今も尚伝わつてくる。情報について公式HP、Twitterでご確認ください。

（天理図書館 吉成伸仁）

## <天理図書館のお知らせ>

Tel 0743-63-9200 URL <https://www.tcl.gr.jp/>

◇平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○10月の休館日：2日・9日・16日・18日・23日・26日・30日・31日

○本書は、今年開催する展覧会「中国古典名品展」にて展示します。

※最新の情報については公式HP、Twitterでご確認ください。

## ►【ぐんしょちょう】

### 駿河版

47冊 元和2(1616)年刊

縦28.0cm 横18.0cm

